

名 称	AdP.KAFO (アドピカッフォ)		
仕 様	右足用／左足用 (共通ではない)		
適 応	脳卒中片麻痺 (急性期から訪問迄)		
重 量		P.KAFO	P.AFO
	男性用:	1,100g	350g
	女性用:	850g	320g
サイズ	男性用: 下腿長36.0～41.5cm		
	女性用: 下腿長31.5～36.0cm		
適応身長	男性用: 160cm～175cm		
	女性用: 145～160cm		
オプション (別売り)	取り換え用周径調節インナー		
	補高調節靴「リフターシュー」		
	股関節内外旋矯正用具「ゴム製ツイスター」		



病院常備型治療用下肢装具 アドピカッフォ

AD P.KAFO
Adjustable Plastic Knee Ankle Foot Orthosis



オーダーメイドと病院・施設常備型の両立 ―――

誰にでも付けられ、正しくサポート、タイムリー。

使いやすさと「効果」をみつめて進化をつづけてきた、

病院・施設常備型治療用下肢装具 アドピカッフォ AD P.KAFO の登場です。



P.KAFOカスタム (1978年開発)



CCAD joint (1998年開発)



Ad P.KAFO (2011年開発)

AD P.KAFOの装着手順



① 調節ダイヤルをすべてゆるめ、本体を最長まで引き伸ばし、患者の足の長さに合わせ仮止めします。



② 長さを合わせた本体を上部から足を通し、太腿部分を少し浮かせた状態で装着します。



③ 本体に足を入れた状態です。かかと、ふくらはぎが本体に正しく密着しているか確認してください。



④ 大腿部分を手で押さえて膝軸を合わせ足の長さに調節し、本締めしていきます。



⑤ 調節ダイヤルを締めたあと、各ベルトをしっかり締め、足を固定します。これで装着は完成です。(最短55秒)



⑥ 足の周径が合わない場合は、標準装備のインナーを装着して太さを調節してください。

急性期から訪問リハまで、幅広くサポート

- 急性期** 急性期ではAd P.KAFOによって足、膝のサポートと健側補高による振出しを助け、股関節内外旋偏位はゴム製ツイスターでコントロールします。
- 回復期** 回復期はAd P.KAFOによって足、膝サポートで使い、回復に応じてP. AFOやP.KOに変更し、足安定となればすべて除去。「いつどのような時期にどのような装具などを考える必要がなくなり」最後に正解の装具処方を本人保険で製作します。
- 維持期** 維持期は足、膝サポートか、足だけサポートかを試したり、装具を持たないケースには患者納得の装具処方を勧めることができます。
- 訪問リハ** 訪問リハではその場の歩行訓練に使用したり装具処方の際の患者納得に効果があります。

脳卒中リハビリ訓練の補助道具として常備用下肢装具が使われていますが、調節式は少なく、サイズがまちまちであったり、また正しくフィットができずにリハビリ歩行効率が悪く長引いたり、そしてオーダーメイドは処方のやり直しができない欠点がありました。そんな悩みを打ち崩すため、わたしたちが産み出したのが、病院常備型治療用下肢装具「アドピカッフォ AD P.KAFO」です。その大きな特徴は、①個人個人に試着とサイズを最適化できる「**だれでもフィット**」。②正しい屈伸を行いリハビリ歩行の効果を上げる「**正しくサポート**」。③使用者のレベルによって各パーツの付け替えが可能な「**回復経過タイムリー**」の3ポイント。「Ad P.KAFO」によって**急性期**から試着治療ができ、**回復期**も初期から試着、また回復に応じて簡略化し、最後に保険適応のカスタム処方となります。さらに脳卒中患者の**訪問リハ**、お出かけに持参し、屋内外歩行にお使いいただき、その後再び調節変更し次の訪問患者へご使用いただけることでしょう。



① FIT だれでもフィット

誰にでも付けられる。

「Ad P.KAFO」は調整ダイヤルとインナーにより装具の長さや周径が調節可能です。またCCAD jointの膝・足機能と角度調節はあらかじめ設定ができます。患者の装着後歩行観察によって微調整を行なってください。本体の取付も非常に簡単で、装着してフィットまで**最短55秒**で装着可能です。



② SUPPORT 正しくサポート

正しく伸びる。

下肢装具を使った訓練を行う場合、重要になるのは「正しく伸ばして必要な筋肉を鍛える」という事です。本体が合成樹脂で作られた「Ad P.KAFO」で行う歩行訓練は、スムーズな膝の屈伸に必要な装具のたわみ(スクリーホームムーブ)が出来るため、歩行に必要な筋肉が無理なく鍛えられます。



③ TIMELY 回復経過タイムリー

レベルに合わせられる。

軽度・中等度・重度・最重度、と患者のレベルに応じて3通り (P.KAFO / P.KO / P.AFO) の使い分けが可能。他にも補高調節靴「リフターシュー」により、脚長差のアライメント調節等を整えたり、股関節内外旋偏位の矯正用具「ゴム製ツイスター」など幅広い異常サインのレベルに対応します。